

今年度の学びの杜や中津川プロジェクトの事後アンケートの回答の中で「大学の学びとはどのようなものか知り、更に学んでみたくなった」「迷っていたが〇〇学の方面に進んでみたいと思った」をはじめとして、大学での「学び」に渴望する高校生の姿、そしてそれに触れられたことへの喜びといったものや、学んだことを自身の生き方につなげていこうとする積極的な姿勢が垣間見えた。このことは、現在の高校段階までの「学び」では大学での「学び」が見えてこないという現状があり、加えてそれはそれぞれの生き方につながっていくと実感が持てないものであることを示しているのではないだろうか。

一方、2011年2月、京都大学など4大学の入学試験において、試験時間中にインターネットの質問サイト「ヤフー知恵袋」に投稿するというカンニング行為を行った仙台市内の予備校生が、京都府警に偽計業務妨害容疑で逮捕された。事件発覚後の2月27日の朝刊で報じられて以降、1週間にわたり、新聞は朝刊夕刊ともにほぼ一面トップを独占した。同様にテレビのニュースでもトップ扱いが続き、生存者の安否が気遣われていたニュージーランド地震や国会解散も見据えた政府予算審議についての報道は、それに次ぐレベルとして扱われていた。メディアの在り方を問う問題でもあるが、日本社会において「大学入学」は多くの人にとっての関心事であると同時に、入試に対して受験生は悶え苦しんでいることや、問題点があらためて明らかになった。少しでも偏差値の高い大学に入ることこそが人生のゴールと見られてそのような状況で、人間としての育ちが揺らいできているのである。

この二つの問題から、現在のように大学入学試験が高校以下の学校段階での「学び」やそれぞれの生き方を規定してしまっていることを踏まえ、そのあり方を見直していくべき時が来ているのではないだろうか。

中等教育研究センターとしても、そのような「学びの問題」に直面している日本社会に対して、どのように改善していくかについて、先導的な実験研究開発をおこない、理論的・実証的研究成果を発信していくことが問われている。また、様々なプロジェクトを通して、一人でも多くの学生・生徒の抱える問題にアプローチし、「学ぶ」ことの喜びを伝えていかなければならない。

(編集委員)

中等教育研究センター紀要 第11号

2011年3月25日 印刷

2011年3月31日 発行

編集者・発行者 名古屋大学大学院教育発達科学研究科
附属 中等教育研究センター
代表者 植田 健 男
名古屋市千種区不老町 〒464-8601
名古屋大学教育学部附属中・高等学校内
TEL&FAX：052-789-2616
E-mail：n47132a@cc.nagoya-u.ac.jp
印刷所 名古屋大学消費生活協同組合印刷部
名古屋市千種区不老町 〒464-0814
